声を宝に50年 やさしさあふれる くらしをめざして
コープみやざき
重ねていこう！
みんなの知恵と小さな努力

コープみやざき

50周年記念誌

生活協同組合 コープみやざき

コープみやざき

50周年記念誌

生活協同組合 コープみやざき

思いをつないで　次の50年へ

会 長　吉 元 美 智

50周年記念誌を作成するにあたり、コープみやざきのそれぞれの時代を担って来られた組合員理事や役職員の方々から、その当時のお話を聞くことができました。

50年前の社会情勢は今の時代からは想像し難いような、公害問題・有害な食品添加物など、人々の生活や命を脅かすものに溢れ、家族の健康、子どもたちの健やかな成長を願う主婦や母親たちにとって、大変な時代だったとお聴きしました。こんな状況を何とかしようと、与えられ買わされる受け身の消費者ではなく、自分たちの体を動かし自分たちの手で安全安心な食品をつくり出し、安定した価格の商品が得られるようにと願う690人の人々が手をつなぎ、くらしを守る「とりで」としての生協を作りました。

50年の歩みの中で、組合員を増やし、商品やサービスについて意見や要望を出し合い、お取引先の膨大な情報や経験などのご協力もいただきながら改善を続けることで事業が広がり私たちのくらしを幅広く支えるまでに成長しました。そして今年、組合員は27万人となりました。あらためて先人の方々や現在の役職員の皆様のご尽力に深く感謝を申し上げます。記念誌には、その時々の役職員の思いや基本となる考え方などもまとめられていますので、読んで理解を深めていただければと思います。

本誌作成にあたり、すべては掲載できませんでしたが、たくさんの思い出メッセージが組合員から寄せられました。100人いれば100とおりの暮らし方があると言われますが、メッセージを読みながら、組合員一人ひとりに「私と生協」という物語があるように思いました。時代の流れや家族の変化によってもくらしは変わります。加入当初は大勢で囲んだ家族の食卓から二人の食卓へと変化しても、その時々のくらしに寄り添う生協でありたいと思います。

生協は組合員が自らの必要のために職員と一緒につくり育てた組織です。そのくらしの願いを実現していくために、組合員から発信される「声」。「私の声が生かされている」「私の思いを受け止めてくれる」と感じられる組織でありたいと思っています。そして「生協があるおかげで私の人生は楽しい」と感じられるよう努力を続けます。

コープみやざきが「組合員が欲しい商品を購入することに応える」購買事業であり続け、「組合員の望む生協」であるために、50年の歴史に学び、次の50年への新たな一歩を踏み出す記念誌となれたら幸いです。読み終わられた後の感想もどうぞお寄せください。

５０周年記念誌刊行にあたって

理事長　日 髙　　宏

コープみやざきは、2023年５月29日に設立50周年を迎えました。50周年を迎えることができたのも、支えてくださった組合員さんはもとより、設立にご尽力いただいた山根弘子元会長はじめ設立発起人の皆さん、ここまで組織を成長させていただいた先輩役職員の皆様、互いに学び合い切磋琢磨してきた全国の生協の仲間たち、そして、パートナーであるお取引先の皆様のおかげです。心より感謝申し上げます。

この度、節目の50周年を迎え記念誌を刊行することになりました。この50年を大きく、「誕生期」「発展期」「確立期」「深化期」の４つに分け、関わってこられた理事、常勤役員の参加で座談会を開き、その時々の事業の変遷、その背景にある思いやご苦労したことなど、語っていただいた内容を中心に編集しました。

「組織運営の逆転」「“新業態”の失敗と赤字転落」「商品部宣言」「店舗商品の品揃えの考え方の整理」など、大きな転換期が何度かありました。それらを乗り越えて今があります。私は1985年に入協し、翌年組合員数が３万人になって皆で喜び合ったことを思い出します。今では27万人を超え、県内世帯数の56％を超えるまでの組織に成長しました。

改めて50年の歩みを振り返ることで、コープみやざきが宮崎の地で、生活協同組合として果たしてきた役割と存在価値について確信を持つことができました。歴史を知るということは、将来を知ることにもつながります。過去を知らずして未来は創れません。これから起こるさまざまな課題を乗り越え、未来に向かって発展しようとする時に、これまで50年の歴史がその拠りどころになると思います。一人でも多くの役職員に共有していただくことを願います。

現在もこれからも、世界情勢を含めて大変厳しい環境が続くことが予測されます。協同組合への期待や役割、存在意義はさらに高まってくると思います。

51年目のタスキを受け取った私たちは、これから迎える未来を創っていく使命があります。これからも、基本方針を軸にぶれることなく“すごい組織”をめざして、「“私たちの供給する商品を中心に家族の団らんがはずむこと”をめざします」のスローガンのもと、役職員がコープみやざきワンチームとなって努力していきます。そして、宮崎の地で「キラキラ光る組織」をつくっていきます。

目　次

思いをつないで　次の50年へ …… 会　長　吉元美智　2
５０周年記念誌刊行にあたって …… 理事長　日髙　宏　3

第1編　50年をふりかえって …… 7

第1期　誕生期　1973年-1982年 …… 8

宮崎市民生協設立までの道のり …… 8
「平和が丘消費者の会」「宮崎生協準備会」そして「生協」をつくりましょう …… 9
「宮崎市民生活協同組合」の設立 …… 10
班づくり　仲間づくり …… 10
組合員自身で注文のとりまとめ。そして職員採用へ …… 11
宮崎南部市民生協の設立に向けて …… 13
宮崎市民生協から宮崎県民生協へ …… 13
生協まつり「虹のつどい」 …… 14
50周年を迎えたコープみやざきへ託すこと …… 15

第2期　発展期　1983年-2005年 …… 17

1984年　県民生協の組織改革（組織運営の逆転） …… 17
1988年　「新業態」の失敗と得たもの …… 20
商品部改革 …… 21
産直の整理 …… 22
基本方針 …… 23
文化の取り組み …… 24
安全の取り組み …… 26
店舗事業 …… 27
共済事業 …… 29
コープみやざきの今と、これからに期待するもの …… 29

コラム　商品部宣言、商品部スローガン …… 30

第3期　確立期　2006年-2016年 …… 32

自己開示 …… 32
「改善無限・知恵無限」「善の循環」 …… 34
「相手の立場に立って考える　人の喜ぶことをする」 …… 36
消費生活協同組合法の改正 …… 36
食の安全と内部統制 …… 38
商品政策 …… 39

よろずサービス …… 40
コープみやざきの今と、これからに期待するもの …… 41

第4期 深化期 2017年以降 …… 43

コープみやざきの、設立から一貫して変わらないもの …… 43
声を大切に事業を進めるということ …… 44
「日本でいちばん大切にしたい会社大賞」の受賞 …… 45
一人暮らしになっても、ひとりぼっちにしない …… 46
商品政策のこれから …… 47
共同購入事業のこれから …… 48
店舗事業のこれから …… 48
生活事業のこれから …… 49
コープみやざきの今とこれから …… 50

第2編 思い出メッセージ …… 51

共同購入の思い出 52
店舗の思い出 54
生活事業の思い出 56
商品の思い出 58
子育ての思い出 60
イベントの思い出 61
コープ委員会（運営委員会）の思い出 62
職員の思い出 64
配達の様子 66
私の子どもにも生協が広がっています 67
加入のいきさつ・きっかけ 68
子どもの頃から生協がある暮らし・ライフステージ 70
50周年おめでとう 72
生協は人生のパートナー 74

第3編 資料・年表編 …… 77

事業の変遷
組織の変遷 …… 78
商品の変遷 …… 82
共同購入の変遷 …… 85
店舗の変遷 …… 87
生活事業の変遷 …… 89

資　料
組合員数、供給高、声の件数 …… 91
「設立趣意書」／当時を伝える新聞記事 …… 92
５０周年スローガン …… 94

50年のあゆみ［年表］ …… 95～111

※「50年のあゆみ」は、111ページから93ページに向かってお読みください。

第1期 誕生期 1973年-1982年

［参加者］

山根弘子さん　設立発起人。理事・理事長・会長を歴任（1973～2005年度）

小川洋子さん　設立発起人。理事（1973～77年度、92～93年度、96～2005年度）

上村方子さん　理事（1973年度、1976～87年度、2000～07年度）

吉倉典子さん　南部市民生協理事長（1980～83年度）・理事（1984～91年度、2018年度～）現理事

松田修一さん　元宮崎大学生協理事（1973年の設立当初から事業に携わる）現宮崎東支所職員

後列左から、松田修一さん、上村方子さん、小川洋子さん
前列左から、山根弘子さん、吉倉典子さん

宮崎市民生協設立までの道のり

山根　1973年の設立の前、私は宮崎大学生協※を利用していました。官舎住まいの時は、宮大生協の牛乳やお味噌・洗剤など配達がありましたけど、1971年に引っ越した平和が丘に配達がなかったんです。それで、「引き続いて牛乳を配達してください」ってお願いしましたら、「30世帯ほどまとまれば配達に行きます」ということでした。

引っ越したばかりで顔見知りもいなかったんですが、近所の宮大生協の利用者の方と２人で、とにかく知っている人や子どもさんがいそうな人にお声掛けして回って、なんとか30世帯まとめて配達してもらえるようになりました。

その当時、牛乳は加工乳が主で、ヤシ油を入れた牛乳が出回ったりしていました。大学から届くのは実習用の牛乳なので、搾って殺菌して瓶詰めしてそのままが届く美味しい牛乳だったんです。だから評判はよくて、お値段も市販のより安かったから、子どもさんがいらっしゃる家庭にはとにかく喜ばれました。

上村　そうそう、「牛乳の美味しくて安いの見つけたよ」って教えてもらって、それから始めたね。５歳の娘も牛乳の配達とか注文回覧とかして楽しんでたよね。

山根　ところが困ったことが起きました。30世帯の牛乳代は大学職員さんのお給料から天引きで大学生協に支払うようになっていて、だんだん金額が大きくなるとお給料の振り込みが減るから、その方に迷惑をかけてしまうことになりました。宮大生協に相談すると、「消費者の会など創ってもらえれば、給料天引きはやめましょう」というお話をいただいたので、とにかく早く人数を増やそうっていうことが中心になりました。

※宮崎大学生協　当時の宮崎大学は宮崎市船塚町にあり、大学生協はその教育学部にあった。

第2期 発展期 1983年-2005年

後列左から、真方和男さん、亀田高秀さん、大久保弘幸さん
前列左から、米良しげ子さん、山根弘子さん、和田裕子さん
佐藤ひろ香さん

［参加者］

山根弘子さん　設立発起人。理事・理事長・会長を歴任（1973～2005年度）

大久保弘幸さん　理事・専務理事・副理事長・理事長を歴任（1978～2007年度）

亀田高秀さん　理事・専務理事・理事長を歴任（1990～2017年度）現顧問

真方和男さん　理事・専務理事・理事長を歴任（1990～2021年度）現顧問

和田裕子さん　理事（1988～1995年度）、副会長・会長を歴任（2004～2019年度）

佐藤ひろ香さん　理事（1978～1989年度）

米良しげ子さん　理事（1988～1997年度）

1984年　県民生協の組織改革（組織運営の逆転）

（メモ）組織改革は、組合員を出発点として、組合員→班長→班長会→運営委員会→運営委員長会→理事会→その問題の解決先へつなぐ、組織の運営方法に転換した取り組みを指します。

改革以前は、全国の生協の代表が日本生協連総会で方針を決め、日本生協連が方針に沿って全国の地域生協へ課題を出し、各生協の理事会は方針を具体化して、理事会→運営委員長会→運営委員会→班長会→組合員へと伝えていました。運営を逆転したきっかけは、当時の椎木孝雄常務が、ある班長会で聞いた「生協が私たちにして欲しいことは分かりました。ところで、今日たくさん出された意見や要望は、理事会でどう取り扱われますか？」という組合員さんからの一言でした。

大久保　1984年の「組織改革」は全ての出発点になっていると思う。要するに「押しつけ」から「利用者の声をもとにして運営していく」という転換がなければ、商品の押しつけや普及が中心の事業運営になっていたと思います。それを当時の椎木孝雄さんが中心になって、組織改革を1983年・84年と進めて、具体的に商品ではこうなる、システムではこうなる、注文方法はこうなると、個別の問題として展開していけたのだと思いますね。

椎木孝雄さん

1982年度から1995年度までコープみやざきの常勤理事・常務理事・専務理事を、1999年度から2007年度まで副理事長を歴任。

山根　組織運営を逆転した頃は、私は組合員としてすごくしんどくなっていました。逆転する前のピラミッド型運営の時代は、理事会で決めたことを班長会で班長さんに伝えて、組合員さんにやってもらいたいことを班会に下ろす形でした。ところが周りを見回したら、日々命と向き合って一生懸命仕事していらっしゃる看護師さんたちに、「家に帰ったら手作りでお料

第3期 確立期 2006年-2016年

後列左から、真方和男さん、亀田高秀さん
前列左から、喜田久美子さん、山田敦子さん、和田裕子さん
黒木久美子さん

［参加者］

和田裕子さん　理事（1988～1995年度）、副会長・会長を歴任（2004～2019年度）

亀田高秀さん　理事・専務理事・理事長を歴任（1990～2017年度）現顧問

真方和男さん　理事・専務理事・理事長を歴任（1990～2021年度）現顧問

喜田久美子さん　理事（1998～2015年度、2022年度～）現理事

黒木久美子さん　理事（2000～2019年度）

山田敦子さん　理事（2002～2021年度）

自己開示

（メモ）コープみやざきの歴史の中で、地域責任者ニュースが自己開示の原型をつくってきました。地域責任者一人ひとりの率直で素朴な自己開示は、組合員さんとの距離を縮め、共同購入の質的な前進をつくりあげます。2005年には、店長の山下英則さんが柳丸店で始めた「川柳を組合員さんから募集して掲示する取り組み」は、お店に優しい雰囲気をつくりあげます。「ハフハフと鍋をかこんでみな笑顔」の筆文字ポップは、日本生協連が全国に紹介し活用されました。

柳丸店

喜田　山下英則さんの奥様の書が見事で素晴らしかったですね。ご自身のプライベートも含めていろいろ開示されるようになって、身近に感じました。

2013年５月の東ブロック総会に参加したとき、「何でも訊いてねワッペンに職員の名前を入れてほしい」という意見がありました。それに対して、真方さんが９月理事会で「八百屋のおやじさんおかみさんの関係を目指して、よそよそしい関係から親しい関係になるようにしたい。その形の一つが名前で呼ぶということです。名前を呼ぶことに抵抗があるかも知れないけれども、それは軸として変えない。呼ばれたくない方には黄色シールを貼る」と発言されました。今は本当に身近になって、組合員さんも自分の意見がポップで紹介されると嬉しい気持ちになる、という声をいただいたりしていますね。

山田　地責さんが自己開示をすることで、それまでは商品の話ぐらいしかし

第4期 深化期 2017年以降

［参加者］

吉元美智さん　副会長・会長を歴任（2018年度～）現会長

真方和男さん　理事・専務理事・理事長を歴任（1990～2021年度）現顧問

河田公克さん　理事・専務理事・理事長を歴任（2012～2022年度）

花田佳世子さん　理事（2006～2022年度）現監事

鶴﨑京子さん　理事（2016年度～）現理事

田中美夏さん　理事（2016年度～）現理事

後列左から、真方和男さん、河田公克さん
前列左から、田中美夏さん、鶴﨑京子さん、吉元美智さん
花田佳世子さん

コープみやざきの、設立から一貫して変わらないもの

吉元　今回、座談会を１期からずっと聴かせていただく中で、山根弘子さんが「自分たちの欲しいものが言えて、それが買える」とおっしゃっていました。そのことが、設立趣意書の中には、「私たちは、与えられ買わされる受身の消費者ではなく」という一文が入っていて、ずっと変わっていないんだなということを山根さんの言葉を聴きながらすごく思いました。この言葉は、よく採用説明会や新入協の方へ言葉としては言っていましたけど、今回お話を聴いて自分の中に落ちました。それと、一人ではできなかったとおっしゃっていましたので、みんなで協同して、みんなの力で進める姿勢というのは、一番最初から今まで変わっていないというのを今回強く思いました。

花田　そうですね。設立のときから組合員が真ん中にあって、みんなで作り上げた生協というのが、まず根底にあると思います。職員さんと組合員みんなが一緒になって仲間づくりをし、27万組合員の生協になったけれども、最初から変わっていないのは、私たちが私たちの生活をデザインしていいということだと思います。自分が欲しい商品を買って、自身の生活を豊かにしていくことをやっていいんだよということ。

　自分たちが意見を出し、要望を伝えて、そこに応えてくれる職員集団とお取引先がある。そこに揺るぎがないから、いろんな要望が出されたり状況の変化があったとしても、対応していけるのかなと思っています。

吉元　１期の座談会で「平和が丘の人たちは、私が生協を創ったとみんなが思っている」と言われていました。それを今でも感じておられるというのがすごいなぁと思います。

組織の変遷

1970

70年度 (S45)
- 宮崎大学教職員の家庭から活動が出発する。宮崎大学生協に安くて品質の良い牛乳を配達してもらう。
- 平和が丘団地に生協設立のための呼びかけを行なう。

71年度 (S46)
- 平和が丘団地、供給活動開始。Ｈ１班（平和が丘の１班）から始まり、３ヵ月後には11班となる。

72年度 (S47)
- 第１回班長会で「消費者の会」を結成する。
- 第２回班長会で「宮崎市民生協設立準備会」発足する。

73年度 (S48)
- 宮崎市民生活協同組合設立趣意書（３月12日）。
- 「宮崎市民生活協同組合」設立総会開催（５月29日）。
- 事務所を平和が丘西町から北町へ移転する。

74年度 (S49)
- 宮崎南部市民生協設立（９月８日）。
- 組織部、商品テストグループ、編集委員会が誕生する。

75年度 (S50)
- 班活動費の支給が始まる。
- 事務所と倉庫を平和が丘から大塚町へ移転する。
- 運営委員会が地区ごとにできる（５地区36人）。
- 機関紙の名称を「にじのわ」に決定する。

76年度 (S51)
- 運営委員会を定例化する（５地区67人）。
- 第１回生協まつり「虹のつどい」を開催。

77年度 (S52)
- 宮崎市消費者団体連絡協議会へ加盟する。
- 全地区運営委員会議を年２回行う。
- 都城設立運動を開始する。

78年度 (S53)
- 班活動費還元対象商品が牛乳から全利用商品になる。
- 宮崎県生活協同組合連合会を結成する（宮崎市民生協、宮崎大学生協、学校生協、王子製紙生協、南部市民生協、西臼杵生協）。
- 一般消費税反対宮崎県連絡協議会を結成する。
- 全地区運営委員会議を年３回行なう。

79年度 (S54)
- 定款を宮崎市のみの活動から、宮崎県全域へ活動できるように変更。
- 都城生協設立準備会が500人を突破する。

1980

80年度 (S55)
- 「宮崎県民生活協同組合」に名称を変更する。
- ミニ班長会を開催する。

82年度 (S57)
- 延岡地域に生協の輪が広がる。

83年度 (S58)
- 生協大会で優良生協として表彰される。
- 「大型間接税導入を阻止する決議」総代会で採択。

コープみやざき50年のあゆみ（1973〈昭和48〉～2022〈令和4〉）

※「50年のあゆみ」は111ページから93ページに向かってお読みください。

年度	1973（昭和48）	1974（昭和49）	1975（昭和50）
関係数値	設立時の組合員数　690人 （以降は年度末の数値です。）	組合員数　1,621人 加入率（世帯）　0.5% 供給高　9,987万円 出資金　473万円	組合員数　2,256人 加入率（世帯）　0.7% 供給高　17,790万円 出資金　695万円
主な事柄	●「宮崎市民生活協同組合」設立総会開催（5月29日）。 ●月3回の配達でコースごとに注文を集計し、月の上旬に食品、中旬に生活消耗品、下旬に雑貨の配達を行なう。 ●事務所を平和が丘西町から北町へ移転する。 ●南部市民生協設立準備会の活動を支援する。 ●生協協議会設立。第一回生協大会を行う（宮崎市民生協・宮崎大学生協・学校生協・東児湯生協・西臼杵生協・日本パルプ生協）。 ●オイルショックの影響で、トイレットペーパー、しょうゆ、洗剤を分け合う。	●宮崎南部市民生協設立（9月8日）。 ●宮崎市内を5つの地区に分けて、地区担当制を実施する。 ●酪農とよい牛乳を守る運動を行ない2000人の署名が集まる。 ●一部地区で運営委員を選任。 ●組織部、商品テストグループ、編集委員会が誕生する。 ●灯油価格交渉によって宮崎市内で一缶600円となる。 ●取扱い商品が、食品35、雑貨33品目に増える。	●班活動費の支給が始まる。 ●班単位の箱詰め集品になり、商品代金回収も月1回から次回配達日回収に変更する。 ●事務所と倉庫を大塚町へ移転する。 ●運営委員会が地区ごとにできる（5地区36人）。 ●機関紙の名称を「にじのわ」に決定し毎月1回発行する。 ●うすくちしょうゆ、パン、肉、いりこ、ダイヤサイダー、高岡みかんが利用できるようになる。
社会情勢	オイルショック ウォーターゲート事件 全国消団連の物価値上げ反対国民集会	各地で狂乱物価へ抗議行動 長嶋茂雄現役引退	ベトナム戦争終結 灯油裁判始まる 日本初テレビゲーム『テレビテニス』発売

大塚の事務所・倉庫

街頭での宣伝

トラックでの
移動展示販売

第１回市民生協「虹のつどい」

トラック

５０周年記念誌　編集委員

吉元　美智	日髙　　宏	吉倉　典子
喜田久美子	久峩喜志子	鶴﨑　京子
木山　浩一	小山田　浩	迫田　和子
深野　美代	田中　克典	坂本　健一
喜多　知彦	日髙　眞子	湯地　成美

題字　図師　好幸

コープみやざき５０周年記念誌

2023年10月25日　印刷
2023年11月29日　発行

発　行　生活協同組合コープみやざき
〒880-8530　宮崎市瀬頭2丁目10番26号
TEL (0985) 32-1234　FAX (0985) 32-3355
印刷･製本　有限会社 鉱脈社